

岡本さん(郡山)東北医療功労

元県作業療法士会長 リハビリりで貢献



岡本宏二さん

地域医療や保健福祉に長年尽力した人に贈られる第51回医療功労賞の東北地方表彰の受賞者が決まった。本県から元県作業療法士会長の岡本宏二さん(62)＝郡山市、ふくしまをリハビリりで元気にする会理事長＝が選ばれた。

【3面に関連記事】

岡本さんは作業療法士として、県内の病院で病气やけがを負った人などのリハビリりを長年担ってきた。東日本大震災後の2012(平成24)年には、ふくしまをリハビリりで元気にする会を発足させ、原発事故の影響で屋外での遊びが制限される発達障害児らに屋内での遊びを提供するなどして健全育成に貢献してきた。

医療功労賞は、困難な環境の下で地域住民の健康増進などのために働く医療従事者をたたえる。本年度から表彰形式が変わり、これまでの都道府県別から、全国8地方厚生局・支局別の地方表彰となった。

仙台で16日表彰式

東北地方の表彰式は16日、仙台市で行われる。医療功労賞は読売新聞社の主催、福島民友新聞社の共催、厚生労働省、日本テレビ放送網の後援、アインホールディングス、JCRファーマの協賛。

発達障害児に遊び提供



資料を示しながら活動内容を振り返る岡本さん

医療功労賞・岡本さん

第51回医療功労賞の東北地方表彰を受賞した元県作業療法士会長の岡本宏二さん(62)＝郡山市、ふくしまをリハビリりで元気にする会理事長＝は、東日本大震災後の発達障害児の健全育成などに長年貢献してきた。

【1面に本記】

県内各地の体育館などを利用して発達障害児に遊びを提供する「あしかの遊びの会」は初開催から約11年が過ぎ、開催回数は40回を超えた。スタッフは岡本さんをはじめ、知り合いの学生や保育士らで、いづれもボランティア。岡本さんは「人生を通じてさまざまな人に助けてもらった恩を、誰かに返したい」と思いだした」と始めたきっかけを振り返る。

「子どもたちの素晴らしい栄養に」

美さん、美津子さん夫妻の縁で本県へ。竹田綜合病院(会津若松市)などに長年勤務し、患者らを支えてきた。

生活動作や口腔ケア、畑仕事にゲーム。子どもから高齢者、障害者といった幅広い人向き合う作業療法の手段は多岐にわたる。2001(平成13)年から10年間、県作業療法士会長の務めると、地域の中でさらに作業療法の考え方が必要だと痛感した。そこで「ふくしまをリハビリりで元気にする会」を12年に発足させて独立し、各地で療育指導などに当たることにした。

現在は講演や指導で多忙な日々を過ごす。放射線への不安を抱える保護者からの要望を受けて始まったあしかの遊びの会は、重要なライフワークだ。遊具などでの遊びについて「運動と感覚のやりとりは、子どもたちの脳への素晴らしい栄養になる」と岡本さん。「遊びの会のような機会がさらに増えるように、さまざまな人にノウハウを伝えたい」と今後を見据えた。

「第51回医療功労賞」表彰

掲載：読売新聞

掲載日：2023年1月11日付

(第3種郵便物認可) 2023年(令和5年)1月11日(水曜日) 読売

医療功労賞に岡本さん

地域医療に長年貢献した人に贈られる「第51回医療功労賞」(読売新聞社主催、福島民友新聞社共催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、アインホールディングス、JCRファーマ協賛)の東北地方表彰者が決まった。県内からは郡山市の作業療法士、岡本宏(さん)(62)が選ばれた。岡本さんの歩みや抱負を紹介する。

住民の健康作りにも力

新潟市出身。19歳のとき、母が脳卒中で寝たきりになった。入院先の病院で世話をするうち、リハビリを支える専門職の作業療法士にあこがれた。院内に勉強場を用意してもらい、職員から進学のアドバイスを受けるなど、人なつっこい性格で多くの人に支えられた。

23歳で作業療法士の養成学校に入学。竹田総合病院(会津若松市)に勤める先輩に誘われ、1988年から同病院で働き始めた。

作業療法士は病気や障害がある人の社会復帰に向け、食事や入浴など日常動作の訓練を行うのが中心だが、次第に地域の保健師と共に各地に赴いて住民の健康作りに関わるようになった。「大変なことがあるたびに助けてくれる人が現れる。その恩を次に送りたいという思いで活動を続けてきました」と振り返る。

2011年に東日本大震災と福島第一原発事故が起きると、放射線被曝の心配から、県内では子どもが外で自由に遊ぶこともできなくなった。発達障害児らも安全に遊べる場を提供しようと、12年に一般社団法人「ふくしまをリハビリで元気にする会」を発足させた。体育館などで思う存分に体を動かせるのが好評で、これまで40回開かれ、延べ1000人近いボランティアが参加している。「作業療法士は生活に主眼を置く。だからどんな場面でも支援ができる」と胸を張る。

地域での健康活動、ボランティア、学校の授業や講演などで休みはほとんどない。自動車の走行距離は毎年6万キロ・ほど近くなる。

母は長年の闘病の末、93年に亡くなったが、「母にしてあげられなかったことをみなさんにやってあげたい」という気持ちが原動力だ。後進の育成が課題で、「今の活動を県全域に広げたい」と話している。



「作業療法士の活動が認められたい」と話す岡本さん(郡山市)